

(様式1) 令和 4 年度

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0590101176	
法人名	株式会社KSFカンパニー	
事業所名	グループホームPlus 青棟	
所在地	秋田市飯島字長山下15	
自己評価作成日	令和5年2月7日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
訪問調査日	令和5年3月10日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

暖かみのある、みんなが穏やかに過ごせるような施設を目指しています。  
 入居者の立場に立ち物事を考え、尊厳を守りながら一人一人に寄りそったケアを行い、信頼・安心して暮らせるような家庭的な環境作りに努めております。また、入居者が役割を持った生活を送り、自信につながるような支援を心掛けています。開設してもうすぐ一年が経ちますが、入居者はもちろん、ご家族との信頼関係がとて大事だと思っております。今後更に信頼していただけるよう職員一同励んでおります。皆さん看取りまで希望されている方達ですので、最期を迎えた時に「Plusで過ごせて良かった、Plusを選んで良かった」と思っていたらいいような施設でありたいと思い、一日一日を大切に入居者と共に生活しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホーム内の全ての壁が結露やカビ防止に効果のある調湿性能の高い真っ白な漆喰を採用している。ユニットの一方は住宅街や主要道路の眺め、もう一方は広々とした山脈とその下に広大な田園、まるで異なるホームかと錯覚する程である。近隣の観光地や山菜取り等々、コロナ禍であっても工夫して積極的に外出支援を実施している。また、食事が楽しみになるよう特に力を入れているとのこと。皿数も多く、食事の色合いにも気配りが感じられる。感染症が治まったら、町内の文化祭や地区の夏祭りへの参加、大好きな回転寿司等へ連れ立ってでかけるのを心待ちにしている。開設後1年が経過する中、スタッフ間で看取りに対する思いを議論しあっているとのこと。管理者の終末期にホームで看取る前向きな揺るがない信念を確認することができた。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月一回の職員会議で毎回実施出来ているかを振り返り、今後のケアへつなげられるような話し合いの場を設けており、理念の実施に努めている。	介護理念は、オープニングスタッフで一言一句を吟味して作成したとのこと。介護理念がスタッフルームに掲げられ、開設後わずか1年であるが、「入居者様を第一に」「寄り添った支援」といった内容をスタッフで確認し合っているとのこと。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、できていない状況が続いているが、地域行事や地域の人々を応援できればと思い協賛等で協力させてもらっている。	民生委員や町内会長、地域婦人会との協力態勢に手ごたえを感じていたものの、コロナ禍により不十分さを感じている。地域の夏祭りや盆踊りへ利用者を連れ立って参加できる日を心待ちにしている。	コロナ禍の真ただ中に開設したホームであり、今後の地域との更なる関係作りに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	コロナ禍の為、地域の人々に伝えるということとは出来ていない状況ではあるが、ご家族の方からのご相談にお答えし、認知症に対する理解を深めてもらえる努力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、現在二か月に一回、書面での開催となっている。資料をお送りした後、意見を頂戴し参考にさせて頂いている	家族代表、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、他福祉施設代表者等が委員メンバーとして参加している。書面参加ではあるものの、外出が制限される中、ホーム内での楽しみを実によく工夫しているとの感想、ホーム内のアクシデントに対するアドバイス等が確認できた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点・不明点はすぐに市役所の担当者へ連絡・相談し、指示やアドバイスをいただいている。	管理者の交代があり、不明な点は市介護福祉課に何度となく問い合わせをし、アドバイスを受けている。生活保護受給者が数名おり、担当者との連絡調整に協力している。地域包括支援センターとは運営推進会議の他、各研修会での連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	夜間は防犯上の為施錠をしているが、それ以外の時間帯については施錠はしていない。拘束や虐待は職員同士が注意を払い防止に努めている。年2回社内研修を行っている。	身体的拘束等適正化委員会は、市介護保険課からのご意見を伺いながら進めている。身体拘束適正化のための指針を整備し、社内研修を年2回行っており、ベッド柵等の行動を制限するような行為について、スタッフ間で活発な意見交換を行っている。	指針やマニュアルの末尾に関係記入様式を添付することで、迅速に記入様式を取り出せる改善を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に、成年後見制度を利用するという事案があり関わるがあったが、今後更に学び理解を深めることが必要と感じた。(管理者)		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前・契約時に説明を行い、その後も不安な事や疑問点がある場合は連絡をいただき補足説明を行い理解・納得を得ている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	意見・要望・苦情等がある場合は電話連絡をいただくこととなり、意見を頂いた際は真摯に受け止め改善に努めている。	毎月各家族に対し個々に近況や写真を工夫し、たよりを届けている。開設後1年が経過し、この4月にホームだより第1号の発信準備中である。	コロナ禍での開設であったことから、思うように家族との交流や理解促進が進まなかった状況を踏まえ、ホームだより第1号の発信を大いに期待します。
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	個人面談の機会を設ける他に、適宜職員より聞き取りを行い、働きやすい環境づくりを目指している。	開設後1年のホームであり、利用者主体の思いは全スタッフの共通点ではあるものの、スタッフそれぞれの意見や提案を出し合い、ホームとしての支援方法を前向きに作り上げようとしていることが感じられる。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他市にあるグループホームの代表・管理者と交流させていただいており、相互訪問の際は意見交換を行い勉強させていただいている。		
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談時に聞き取りをして、本人が安心できるような声掛けをし、その時点から関係性作りを行うようにしている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安を取り除けるような提案を行い、安心してもらえるような配慮を心掛けている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できるだけ作業できることは役割として行ってもらったり、職員だけで行わず、一緒に行うようにしている。(調理・掃除等の家事作業)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	不穏時や混乱時、家族の声掛けで納得することもある為、協力をしてもらえよう事前に依頼をしている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	月に一度職員から家族宛に現状報告のお手紙を書いており、その際入居者本人が書くこともあり、家族からは喜びの声も聞かれている。又、携帯電話を持っている入居者が操作に困っている際は声掛け等で支援している。	近所だった友人がホームに面会に訪れたり、家族が訪問したりするものの、コロナ禍により面会方法を制限せざるを得ない状況にあった。コロナ禍の開設であったため、一日も早くコロナ禍が終息し、家族や訪問者、近隣住民との更なる交流が図れることを心待ちにしている。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が関われる環境づくりに努めており、共同生活になじめるような声掛けや促しを行っている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者・ご家族の不安を少しでも軽減できればと思い、メール・手紙を送っている。		
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努、これが困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族から聞き取りを行いケアプランを作成し、職員間での共有をしている。	毎日かかさず晩酌を楽しむ利用者が1名おり、家族と本人と相談した上で、定まった量であるが、好みの銘柄の焼酎水割りを嬉しそうに堪能している。利用者の案内で山へ連れ立って山菜採りにでかけ、収穫したミズは利用者皆さんで下ごしらえから調理まで行ったとのこと。米研ぎや掃除、洗濯物たたみ等々、利用者それぞれが役割を持ち生活している。植物管理の元プロの利用者は鉢植の管理にその技術を提供している。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談時や契約時に聞き取りを行い把握するようにしている。知りたいことがある時は家族に問い合わせたり、面会の際に聞くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	適宜カンファレンスを行い、それをもとにケアプランに対する評価をして介護計画書作成を行っている。	過去の生活歴をこと細かく把握することで、楽しみやホームでの役割を個々に反映させるよう取り組んでいる。動けるうちは出来るだけ体を動かして、出来ることは自分でするようにとの家族の希望に添い、スタッフが手を貸しすぎないよう配慮している。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を個々に記録している。変わった事があれば特記事項に記載し職員間で共有している。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化祭に出品できるような作品作りを行っている。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療・毎週1回の訪問看護を実施している。かかりつけ薬局もあり、疑問点等あれば相談して解決につなげている。専門的な医療が必要な場合は職員付き添いのもと受診している。	近隣の医院が協力医療機関(ホームかかりつけ医)となり、かかりつけ薬局、訪問診療、訪問看護等、適切な医療を受けられる体制にある。本人家族の理解が得られれば、ホームのかかりつけ医に変更する場合もあるとのこと。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護時に変わった事があれば伝えている。24時間相談できる体制も整っている。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医と総合病院との提携ができています。入院の際は相談室や病棟と連絡を取り合い情報交換・相談を行うようにしている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族、可能であれば本人を交えて話し合いのうえ意向を聞き取りしている。(その後も年1回の意向確認)	開設後1年が経過する中、スタッフ間で看取りに対する思いを議論しあっているとのこと。管理者の終末期にホームで看取る前向きな揺るがない信念を確認することができた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急時の対応を職員会議時に確認している。コロナが落ち着いてきたら救命講習も行っていきたい旨を地域の消防に相談済。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回実施している。	開設後1年が経過。コロナ禍に開設したホームであり、今後は地域との協力体制の構築に向け、取り組みたいとのこと。消防設備や機器が充実しており、点検もしっかりと実施されている。	
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各入居者の性格や認知症の症状の違いを把握し対応している。 それぞれが出来ることを模索し、役割が持てるよう支援していくことを心掛けている。	同じに思える声かけや誘導でも、声かけするスタッフにより利用者の反応が異なる。わずかな差ではあるが、その仕草や表情、声のトーン等により利用者の反応に変化があることを留意し、今後も模索しながら、取り組んでいきたいとのこと。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択ができるような声掛けの実施、起床時の整容等の声掛けの実施をしている。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け等の食事準備や片付けを一緒に行っている。 食事メニューは、入居者の希望を聞いたり好みのものを取り入れるようにしている。	週交代でスタッフが献立を作成している。煮魚にするか焼き魚にするかの選択肢を聞いたり、味見が利用者の役割だったり、希望メニューを採用したり、食事が楽しみになるよう工夫している。魚料理より肉料理が人気とのこと。皿数も多く、食事の色合いにも気配りが感じられる。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は毎日記録に残している。体調不良時は捕食等で対応している。食事・水分摂取が進まない時は都度声掛けをし促している。それぞれのペースで食べられるような雰囲気作りや声掛けを行っている。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けをし口腔ケアを促している。(自力で出来る方は自力で行い、介助が必要な方は介助にて行っている。)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁を減らせるように排泄チェック表で確認を行い、それぞれに合わせた声掛け・トイレ誘導を行っている。又、トイレに行きたい時の行動表現を掴み誘導につなげている。	利用者の半数以上が自立している。利用者一人ひとりに合わせたトイレ誘導を実施している。自力での排泄に向けた取り組みがいかに大切かを理解し、日々の排泄の自立支援に向けた支援に取り組んでいる。退院時にオムツだった利用者が、リハビリパンツに移行した事例も数件確認できた。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や水分摂取を声掛けにて促す事や、体操を行い対応している。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日は予定として設定しているが、希望によって時間帯は個々に異なっている。又、強要することはせず、入浴日の変更は臨機応変に対応している。	入浴時間は利用者個々の希望に出来るだけ応ずるよう配慮している。特に冬期間は脱衣室も浴室も暖かく気持ちが良いとのこと。入浴を拒む場合は、無理強いしないよう心がけている。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休憩・就寝共に入居者のペースで過ごしてもらっている。介助が必要な入居者には声掛けを行い支援している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・薬剤師に確認して、目的・副作用の理解を職員間で共有し支援を行っている。変化があった際は主治医に報告し指示を仰いでいる。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に適した役割を持ってもらえるよう日々観察し支援をしている。生活にメリハリをつけるためにレクリエーションの実施にて気分転換や楽しみを感じてもらえるよう努めている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ対策の為外出支援はほとんど行えていないが、人混みがない野外でのお弁当を持ってのピクニックや、ドライブ、山菜採りに出掛け、今できる外出支援を考え実施している。	ブルーメッセ・出戸浜・セリオン・小泉湯公園・山菜取り等々、コロナ禍にあっても工夫して積極的に外出支援を実施している。感染症が治まったら、町内の文化祭や地区の夏祭りへの参加、大好きな回転寿司等へ連れ立ってでかけるのを心待ちにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ対策の為、本人が買い物に行くことが出来ない状態が続いている。今後は買い物に職員が同行し、会計の際は自身で行ってもらおう等していきたい。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の温度・湿度管理を行い過ごしやすい環境作りに努めている。季節感を感じられるような作品作りを入居者と共に行い展示している。	ホーム内の全ての壁が結露やカビ防止に効果のある調湿性能の高い真っ白な漆喰を採用している。また、各ユニットのホールからの景色が大きく異なっていて、一方は住宅街や主要道路の眺め、もう一方は広々とした山脈とその下に広大な田園、まるで異なるホームかと錯覚する程である。開設時の入居者には、本人や家族の好みでどちらのユニットを希望するか選択してもらったとのこと。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の席を認識しており、自室から共有スペースに出向くとそれぞれの席に座っている。自室へ戻る事等を強要することなく、自信のペースで過ごしてもらっている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、使い慣れた物を持ち込んでもらう等して、居心地よく過ごせるような居室になるようにしている。	ベットと筆筒、エアコンが備え付けでそれ以外は使い慣れたものを持ち込んでもらっている。とても清潔で明るい居室である。それぞれの居室で窓からの風景が異なり、住宅街・田園・庭園・山並み等々、開設時の入居者には、利用者や家族の好みで居室を選んでもらったとのこと。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱せず、安全に自立した生活が行えるような空間作りを行っている。		